

みやの森通信



第9号
2021/2/4
発行:
Ponteとやま
編集長:
家森 謙

発送凸凹向けフリーペーパー

Ponteとやま(みやの森カフェ) 住所: 富山県砺波市宮森303 電話:0763-77-3733 メール:miyanomori.ponte@gmail.com

Ponteとやま

検索

Ponteとやま

facebook

検索

Ponteとやま

ツイッター

検索



通信のホームページ QRコード
[過去のアーカイブこちら]



facebook QRコード
[Ponte最新情報こちら]



ツイッター
QRコード

Caféな日常



みやの森カフェの本「庭に小さなカフェを作ったらみんなの居場所になった」のなかで、「私は床になりたい」と書きました。見下ろす天井でもなく、守る壁でもなく、「床」。その願いが叶ったような日。

金盛亜耶さんと森井奈津子さんが企画した「手仕事の時間」。お二人の作品が素敵に配置され、温かなゆったりした空気が漂う。そして、カフェスタッフの恭子さん、るりちゃん、ゆかりさんが用意してくれた心こもったスイーツが並ぶ。訪れた人たちの笑顔がこぼれ、穏やかな時間となりました。



私は、「場所(床)」を提供しただけ。コロナも大雪もたいへんですが、「床」を守っていくことで、みんなの可能性を広げて行けたら嬉しいな。なっちゃんのさをり織教室も始まりそうですよ!楽しみです。



KAORUがつぶやく

初詣に行ったらついひいてしまう「おみくじ」。去年はとていいことが書いてあって、気分良く新年をスタートした。さて今年は…が～ん。マイナスのメッセージが並ぶ。

「心配事多し」これまでも十分心配ごとはあって現在進行形の心配ごとも多々。

まだ来るのか～。「盗難に注意」盗まれるような価値あるものはないけどな。あ、有形だけとは限らないか。「争事 先に言うと負ける」怒りは私のエネルギーなのに～。あ、先に言わなければ良いだけだな。開き直り(;▽;) たまたま手にした紙に書いてあることに意外に気持ちが揺さぶられる。

相棒に報告したら「大丈夫!私がかっこいいから!(^^)!おみくじひかないけどね(笑)」心強い相棒にあらためて感謝した2021年の幕開け。



タカチ動物園特別編 実録 僕だけの失敗 (下)

～やっぱお前はかっこいい。そして美しい～



マムシに噛まれ、毒に苦しみながらも命の危険からは脱出(したみたいですが)。
マムシに愛はないが、マムシへの愛はある。実録 僕だけの失敗(全三回)最終回。

10月20日 (日) 三週間後

指の傷は治ったものの、**指の腫れはなかなかひかない。人差し指なのに親指ほどの太さ**になっている。箸を持つことができず、フォークで食事をとっている。手全体に骨が軋むような痛みがある。まだまだ日常生活には支障がある、、、

1年後

マムシに咬まれてちょうど一年が経過したが、**いまだに指は疼くし、痺れるし、疲れやすい。これはいわゆる後遺症なのだろう。長時間のキーボードの作業は地味に辛い。**

詳しくは知らないが、血清は牛だか馬だかで精製されたものらしく、次にマムシに咬まれると一度使った僕に血清を使えないらしい。アレルギー反応がでるそう。

そもそもマムシを素手で触ってはいけないのだ。

僕は趣味で登山も嗜むのだが、過去に唐松岳山頂2,600mの小屋付近でマムシを捕まえ、空のペットボトルに入れたことがあった。もしそのとき咬まれていれば、確実にヘリによる救急搬送で、ヘリの代金として100万円以上の請求が発生しただろう。

以降、僕の野外活動の装備に皮手袋とトングが追加された。

よく人から、「マムシを飼育しているか？」と聞かれるが、マムシは環境省により特定動物(危険な動物)に指定され、法律により特別な許可がないと飼育はできないようになっている。

だが、あのマムシのずんぐりした体型、殺意に満ちた目、**進化したピット器官(鼻先の熱を感知する器官)はかっこいい!** 飼育できるものなら、してみたいものだ。

蛇という生き物は美しい。

無駄のない生き物だ。

手足がなく、交尾する穴も排泄する穴も一つ。

シンプルな胴体で、『進む』『登る』『捕まえる』

『泳ぐ』『滑空する』ことができる。耳もない。

眼は透明な鱗に覆われ、瞬きする必要もない。

消化能力も高く少食でよい。

マムシに咬まれたことで、大変な目に逢ったが、さらに蛇の魅力に気づくことができたといえる。

ある意味勲章のようなものだ。

そして最後にこれだけは言っておこう

『よい子は真似しないでね』



祝

タカチ動物園が柴田理恵認定 ゆるゆる富山遺産(チューリップテレビ)で2021年元旦放映! トップバッターでした(TV撮影用設営写真→)

上中下3回に渡り、お読みくださりありがとうございました。次回作企画。お楽しみに
※よい子だろうが悪い子だろうが、まねはしないでください

ファン急増中！タカチ動物園

念願かなって、今回は“なまタカチ動物園”を開催！
タカチさんの生き物への愛、自然に対する慈しみが
バンバン伝わってきました。カエルが餌のゴキブリを食べる
シーンは子どもたち全員釘付け。ゴックンする時に
目をパチリと閉じる姿、なんとも愛らしい。

なぜ、足がたくさんあるムカデが嫌われるか、逆に足のない蛇が
なぜ嫌がられるか。それは「自分とは違うものへの恐怖感」があるから！
(差別はここから生まれるのではないか)

蛇は脚をなくしたことで狭いところにもくぐれる、木にだって
登れる、空を飛ぶ蛇だっている。脚をなくしたことで可能性を
広げた！(手放すことで得られることもあるんだ)
ムカデは慈悲深い生き物である。自分の産んだ卵を一つ一つ
大切に舐めように育てる。そして最後に大きくなった子に
食われる(親子の関係性、考えさせられる)。

へ～もっと聞きたい！知りたい！
子どもも大人も素晴らしい学びの機会となりました。



子どもに大ウケ！

フリスタあらかると♪

2020年6月にスタートした
Ponteフリースタイルスクール
いろんなことにチャレンジしてます!(^^)!



チャレンジカフェ「たんぽぽ」&「ぷらていか」。メニュー考案、
試作、価格設定、環境整備、接客、調理、盛り付け…子どもたち、
若者たちがこなします。毎月新メニューが登場。
←こんな素敵なカフェラテアートも！

メンバーで作戦会議をしたり、
PCでまとめたりもします。



頼成の森ウォーク、
定例開催しています。
11月には頂上で
お湯を沸かし、
カップラーメンを
食べました。山歩きの達人なっちゃん(森井なつこさん)に
アattendしてもらっています。ちなみに…フリスタメンバー
TAKESHIは森歩きでは「歩くクマよけ」と呼ばれています！？



12月24日には、みんなでケーキを焼き、クリスマス会をしました。
プレゼント交換や今年の漢字を書いたりもしました。
「笑」「動」「働」「家」「迷」「忙」…書いた人の顔が思い浮かびそう。



時と場を共有することで素敵な「仲間」に成長しています。毎日笑いが絶えないフリスタ。
最近笑ってないぞ…という方、ぜひのぞいてみてください!(^^)!

大相撲 3月場所番付予想 byタケシ

力士名	勝利数予想	番付	力士名	勝利数予想
白鵬	12勝3敗	横綱	鶴竜	全休
正代	10勝5敗	大関	朝乃山	13勝2敗
貴景勝	11勝4敗	大関		
照/富士	11勝4敗	関脇	隆の勝	8勝7敗
高安	6勝9敗	関脇		
御嶽海	10勝5敗	小結	大栄翔	8勝7敗
宝富士	6勝9敗	小結		
阿武咲	2勝13敗	前頭1	北勝富士	6勝9敗
明生	4勝11敗	前頭2	霧馬山	5勝10敗
志摩/海	1勝14敗	前頭3	妙義龍	3勝12敗
逸/城	4勝11敗	前頭4	豊昇龍	2勝13敗
玉鷲	9勝6敗	前頭5	遠藤	8勝7敗

頑張れ朝乃山～今場所の振り返りと綱取りになるために必要なこと～

朝乃山の序盤の相撲は100点満点中0点の相撲だと思った。

新型コロナウイルスの影響で出稽古(他部屋の力士と稽古すること)をする機会が減少した。朝乃山が所属する高砂部屋には関取(十両以上の力士)がいないため、強い力士を相手に十分な稽古を積むことができなかった。そのため朝乃山は相撲勘を取り戻せなかった。

朝乃山の強みである立ち合いの力強さと出足の良さ一切発揮されずに相手にあっけなく負ける相撲がほとんどだった。

朝乃山の中盤の相撲は100点満点中25点だと思った。

朝乃山は初場所の取り組みを消化していくうちに徐々に相撲勘が戻ってきた。そのため出足が良くなり相手に圧力をかけることができたため勝ち星をあげる相撲が増えた。

朝乃山の後半の相撲は100点満点中40点だと思った。

朝乃山は相手の左上手を取るようになり安定した相撲をとることができたため相手を圧倒することもあった。

立ち合いを低くして相手に鋭く当たることが最大20点。相手を圧倒することが最大15点。

相手に圧力をかけることが最大15点。安定した相撲を取ること最大30点。

出足をよくすることが最大20点。合計100点。常に完璧な相撲を取ることにはできないが点数を100点に近づけることで相手を圧倒できる横綱になっていこう。

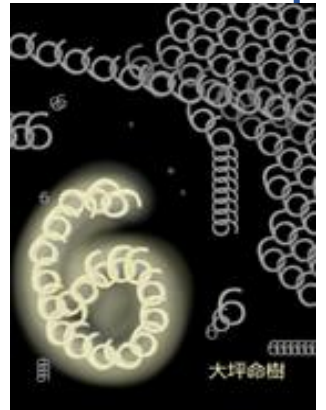
棚ショップ住人の紹介コーナー

みやの森カフェを彩る棚ショップ。その中でも異色を放つメンヘラ作家たちの同人誌「空華」を作る文藝同人無刀会のコーナー主宰者お二人のご紹介

大坪命樹

文学フリマというイベントに出るために、同人誌を小説家志望の友達と作り、現在は当事者のメンバーで作っています。

中学生でSF作家を志しましたが、受験期に統合失調症を発症してから純文学志望に変わりました



藍崎万里子

高校生の頃からモーツァルトの音楽にとりつかれ、天才と芸術を思惟する小説を書いていたが、その「アマプレベス」シリーズが、今やライフワークになっています。



私たちは、今は亡き北海道の小竹犬儒のWEB小説雑誌「当事者」を通じて、ネットで知り合いました。

大坪はいつも押しは女に逃げられる男でしたが、藍崎が小説の登場人物の研究のためにカバラ（占い）を研究していて、僕がカバラ上とても相性がいいというので、僕に声を掛けたのがきっかけで、結婚するまで発展しました。

人生は小説より奇なりとは、小説を書いている二人のことかもしれません。

ぜひ、私たちの本を手にとってご覧ください。

目 時には苦労話も交えながら・・・

▼物事はいろんな人がいろいろな役割を果たしながら動いていると感じる事が増えた。複数人でチームやユニットを組み、どうやったら物事を前へ進めていけるのか？と考える事も増えた▼例えば「お役所仕事」という話がある。否定するのは簡単だが、内側の立場に立てば、個人レベルでは長年変えられないそれ相応の事情や理由があるのかもしれない。時代に応じ、仕組みを変えていく事も勿論必要だが、「お役所仕事」自体をスピード早く対応する(してもらおう)方法はないか？というアプローチや考え方もあってよいと思う▼「お役所仕事」は役人にやってもらうのがNPOの鉄則という話を聞いた事がある。一見複雑で量多いドキュメントや手続きに見えても、物事を前に進める為のポイントは有る。それをよく分かっている人にやってもらえば、物事前に進む可能性高くなるのは必然だ▼別の話で、例えば10人のスタンプラリーが必要なドキュメントがあったとする。1人1人直列に交渉しては時間は到底足りない。その場合、事前に10人並行して連絡や会議をし、予め了承取れば、1回の事前対応と機械的なスタンプ押しで事は済む話なのかもしれない。責任者の判断ではなく、ルーティン的な事務スタンプ押しに落とし込めたら、10人でもそれほど時間要しないのかもそれない▼スタンプラリー自体が問題の可能性もあるが、それが問題とも限らない。事前対応や互いの信頼関係の有り無しこそが真の問題点で、それさえあれば、10人だろうが20人だろうが、割にスムーズに事が進む事だってあるのではないか▼困り事を相談されたら丁寧に対応し、時にはオンライン飲みニケーションも交わしつつ、お互い苦労話を交わしていれば、気心知れ、相手の心も開き、物事も潤滑に進む可能性増すのではないか。納得すれば人は動く。納得しないから人は動きにくい。どこに物事を動かすカギがあるのか？物事の本質を見極める力が問われる

おれは広告をあきらめていない→miyanomori.ponte@gmail.com